

# マルチプレキシング - 概要

この簡易ガイドは、すべてのマイクロソフト ライセンス プログラムに適用されます。

## 目次

概要 .....	2
詳細 - サーバー .....	2
Microsoft SQL Server .....	3
Project Server .....	5
Microsoft Azure DevOps Server .....	5
例 1 .....	6
例 2 .....	6
詳細 - Dynamics 365、Power Platform、Dataverse .....	6
Dynamics 365 が Dataverse や Power Apps と連動するしくみ .....	7
一般的なシナリオ .....	8
一般的なマルチプレキシング .....	8
Dynamics データと Dataverse .....	9
Microsoft Dynamics 365 と Power Platform .....	10
よく寄せられるご質問 (FAQ) .....	11
用語集 .....	12
マルチプレキシング: .....	12
Power Platform .....	13
Power Apps .....	13
Dynamics 365 .....	13
Dataverse .....	13

## 概要

この簡易ガイドでは、マルチプレキシング (多重化) が、マイクロソフト ユーザーのライセンス ニーズにどのように影響を及ぼすかを説明します。「マルチプレキシング」とは、お客様がハードウェアまたはソフトウェアを使用して接続数をプールする、情報の経路を変更する、製品に直接アクセスしたり製品を使用したりするデバイスやユーザーの数を減らすことです。製品が直接管理するデバイスやユーザーの数を減らすことも該当します。

マルチプレキシング テクノロジは、ワークロードの効率化やハードウェアなどのコスト削減に利用されます。マイクロソフトのポリシーやライセンス規約ではマイクロソフト製品でのマルチプレキシングは禁止されていませんが、製品に間接的にアクセスする場合でも、ライセンス管理に関するコンプライアンスを遵守する必要があります。ライセンス構造において、マルチプレキシングではソフトウェアやサービスの利用に必要なライセンスの購入数を減らすことはできません。マルチプレキシングで一般的な形態は、多数のユーザーが 1 つの接続ポイントからアプリケーションにアクセスできるようにする「接続プーリング」です。テクノロジーの進化に伴い、データ移行の自動プロセス、アプリケーションへの間接アクセスなど、マルチプレキシングには他にもさまざまな形態が生まれています。

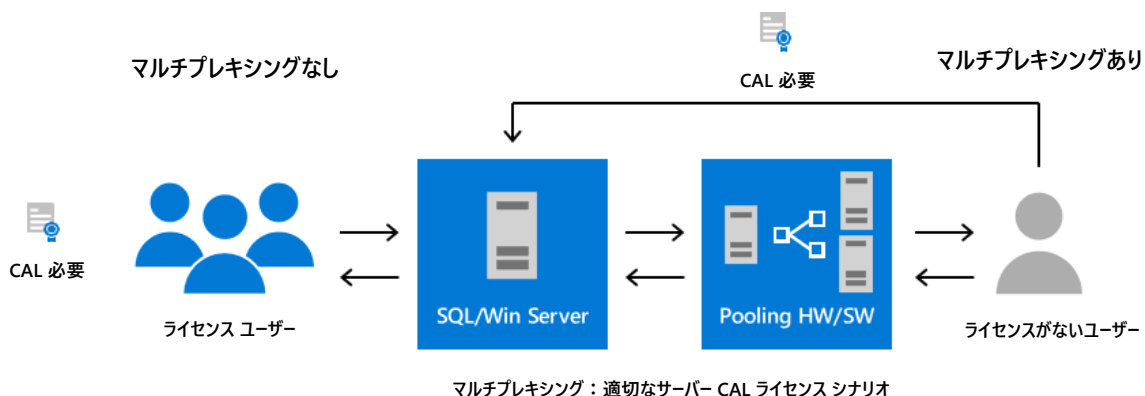
マルチプレキシングは業界全体における課題であり、マイクロソフトも例外ではありません。マイクロソフトは、Dynamics 365、Power Platform、M365 Apps for business など、世界でも最大規模のソフトウェアおよびオンライン サービス ポートフォリオを提供しています。ポートフォリオ全体が急激な成長と進化を続ける中、複数の製品やサービスを連携させて非常に大きなメリットを得られるようになったことで、マルチプレキシングの問題が複雑化しています。

この簡易ガイドでは、Microsoft SQL Server、Project Server、Microsoft Azure DevOps Server を使用する場合は、一般的なマルチプレキシング シナリオについて説明します。さらに、Dynamics 365、Dataverse、Power Platform 関連のシナリオについても触れます。ドキュメントの最後には、主な用語解説を掲載しています。この簡易ガイドで扱う製品以外にもマルチプレキシングの影響が及ぶ場合があるため、追加ライセンスの必要性については、実際のお客様の状況を判断する必要があります。

## 詳細 - サーバー

必要なマイクロソフト製品のライセンス数は、マルチプレキシングによって減ることはありません。製品に直接アクセスするか間接的にアクセスするかにかかわらず、適切なライセンスをユーザーやデバイスに付与する必要があります。たとえば、自動プロセスを通じてサーバーから提供されるサービス、ファイル、データ、コンテンツにアクセスするすべてのユーザーとデバイスに、クライアント アクセス ライセンス (CAL) が必要です。特定の条件では CAL が不要なこともあります。詳細は後述します。通常、ファイル、データ、またはコンテンツが手動による操作の結果として (ユーザーがサーバーにファイルをアップロードしたり、ファイルを電子メールで送信したりしたために) 利用できるようになった場合、手動で転送されたこれらのファイルにアクセスするユーザーまたはデバイスに CAL は必要ありません。

以下の例では特定の製品について説明していますが、他のマイクロソフト製品にも同じ要件が適用されます。ここでは、ネットワークプラットフォームを Windows Server オペレーティング システム、メッセージング プラットフォームを Microsoft Exchange Server として説明します。



## Microsoft SQL Server

図 1、2、および 3 は、Microsoft SQL Server データベース ソフトウェアの典型的なマルチプレキシングのシナリオとライセンス要件の例を示しています。(注: Windows Server および Exchange Server の CAL の要件は、これらのサーバーに対する直接または間接的なすべてのアクセスに適用されます。)

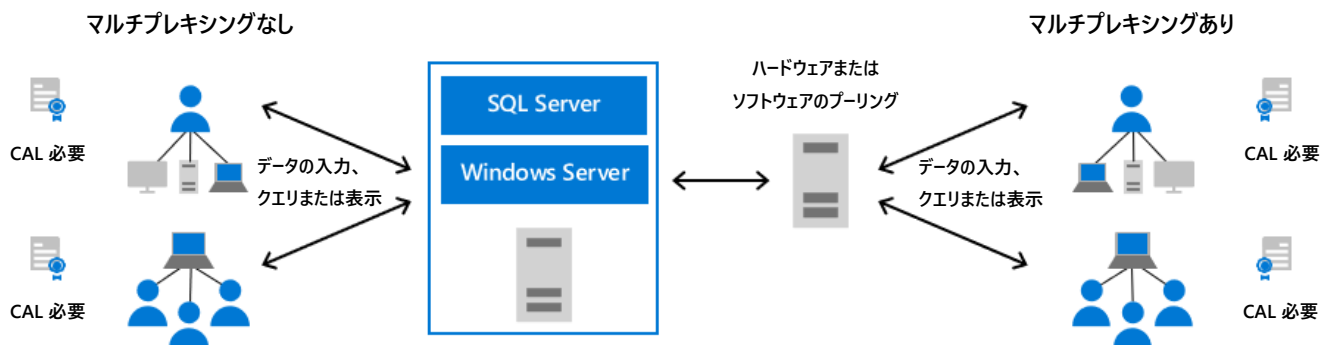


図 1: データの入力、クエリ、または表示

SQL Server CAL は、SQL Server データベースに直接データを入力したり、このデータベースからデータを照会または表示するユーザーに必要です (図 1 の左)。同様に、SQL Server CAL は、プーリング デバイスを通じて SQL Server データベースにデータを入力したり、このデータベースからデータを照会または表示するユーザーまたはデバイスに必要です (図 1 の右)。これには、Web ベースのアプリケーションを通じてデータを表示するユーザーや、中間製品を通じてデータベースに情報を入力するユーザーが含まれます。(注: お客様は SQL Server のライセンスをコア単位でも取得できるので、SQL Server CAL は不要です。)

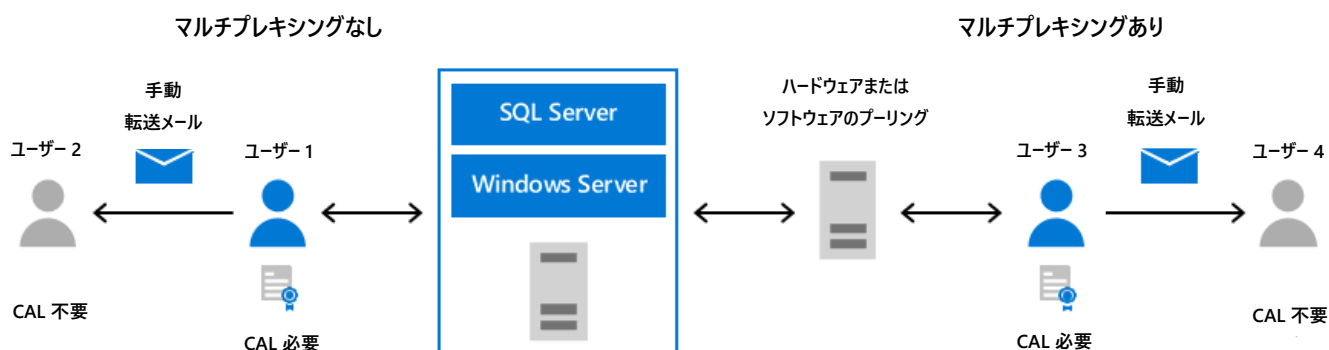


図 2: データのメッセージング

ユーザー (図 2 のユーザー 1) が SQL Server からデータを取得する場合、このユーザーには SQL Server CAL が必要となります。ユーザー 1 がそのデータを電子メールまたは他のメッセージング テクノロジーを使用して手動でユーザー 2 に送信する場合、ユーザー 2 は SQL Server CAL を必要としません。マルチプレキシングの場合も、これらのルールは変わりません。プーリング アプリケーションを通じてデータを受信するユーザー 3 は、同様に SQL Server CAL を保有している必要があります。ユーザー 3 がそのデータを電子メールまたは他のメッセージング テクノロジーを使用して手動でユーザー 4 に送信する場合、ユーザー 4 は SQL Server CAL を必要としません。

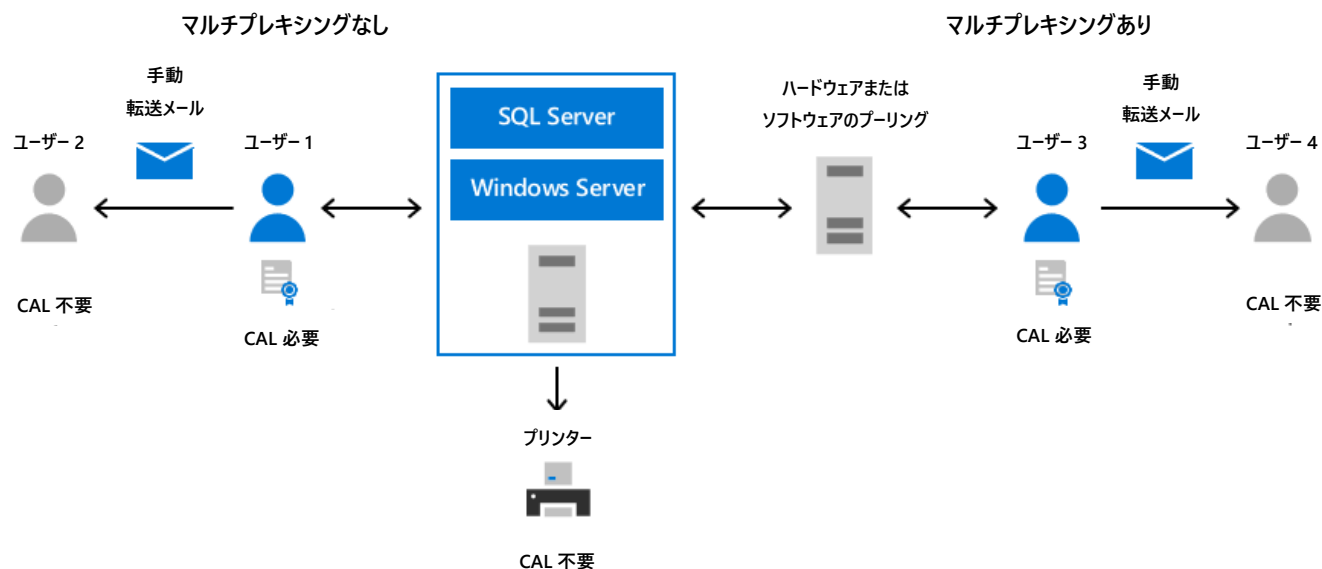


図 3: データのハードコピーの配布

データを紙で配布する場合、紙のレポートの受取人は SQL Server CAL を必要としません。ただし、上の図のユーザー 1 とユーザー 3 の両者は、SQL Server から (直接または間接的に) データを受け取っているため、いずれも CAL を必要とします。それぞれのユーザーがデータを印刷し、別のユーザー (ユーザー 2 とユーザー 4) に配布する場合、受取人であるユーザーは SQL Server CAL を必要としません。サーバーに直接接続されているプリンターには、サーバーからデータを印刷するためのライセンスは必要ありません。また、このプリンターがマルチプレキシング デバイスと見なされることはありません。

## Project Server

図 4 は、Project Server のマルチプレキシングのシナリオとライセンス要件を示しています。(注: Windows Server および SQL Server [サーバー/CAL モデルのライセンスを取得済みの場合] の CAL の要件は、これらのサーバーに対する直接または間接的なすべてのアクセスに適用されます。)

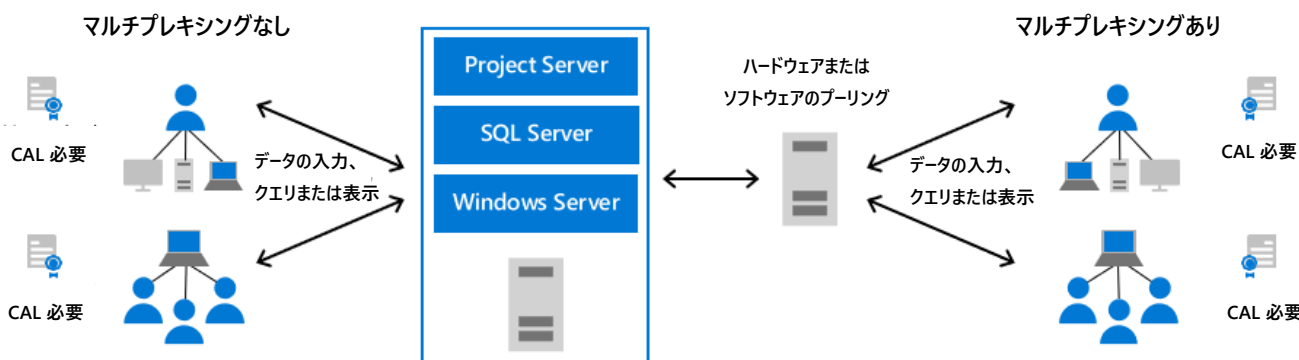


図 4: Project Server の基本構成

Web ベースのアプリケーションを含む可能性のある中間マルチプレキシング アプリケーションを通じて、Project Server からデータを表示または照会したり、Project Server にデータを入力したりする場合は、Project Server の CAL が必要となります。上記の例に示したように、SQL Server の場合と同じ CAL 要件が、電子メールまたは紙による配布を介したデータのメッセージングに適用されます。

## Microsoft Azure DevOps Server

SQL Server および Microsoft のサーバー/CAL ライセンス モデルにおける他の製品と同様に、Microsoft Azure DevOps Server の CAL 要件にマルチプレキシングのルールが適用されるかどうかは、コンテンツ、ファイル、またはデータへのアクセスや配布がどの程度自動化されているかによって異なります。自動化された方法で (たとえば、サーバーから直接、またはサーバーに自動的にポストされて) 利用可能になるファイル、コンテンツ、データのアクセスまたは展開を行うデバイスやユーザーには、CAL が必要となります。ただし、ユーザーがファイルをサーバーに読み込んだり、ファイルを電子メールで送信した場合など、手動による操作の結果として利用できるようになった場合は、手動でポストされたあるいは電子メールで送信されたこれらのファイルにアクセスするユーザーやデバイスに、CAL は必要ありません。以下に、Azure DevOps Server CAL が必要となる例を示します (Azure DevOps Server で使用される他のサーバー製品の CAL 要件は、そのサーバーに対する直接または間接的なすべてのアクセスに適用されます)。

## 例 1

自動処理プロセスが Azure DevOps Server からファイルを読み込むように設定されており、そのサーバー ファームは自動的にこれらのファイルをデスクトップ上に読み込みます。Azure DevOps Server CAL の要件: Azure DevOps Server に戻る継続的な自動リンクが存在しているため、ファーム内のサーバーごとに、およびデスクトップ/ユーザーごとに Azure DevOps Server CAL が必要となります。

## 例 2

ビジネスに関する意思決定者 (BDM) は、サーバーに自動的にポストされた、Azure DevOps Server によって生成されたレポートをダウンロードします。Azure DevOps Server CAL の要件: BDM は Azure DevOps Server の自動化から直接メリットを得ているため、BDM ごとに Azure DevOps Server CAL が必要となります。BDM が別のサーバーにポストされたレポートを確認する場合でも、サーバーの自動ポストから直接メリットを得ることになるため、BDM には CAL が必要となります。

詳細については、[製品条項](#)を参照してください。

# 詳細 – Dynamics 365、Power Platform、Dataverse

前述のとおり、必要なマイクロソフト製品のライセンス数がマルチプレキシングによって減ることはありません。

通常、サーバー データのように Dataverse 経由で Dynamics 365 データにアクセスする場合は、適切な製品ライセンスが必要です。ただし、特定の条件では一部のライセンスが不要になります。自動プロセスを通じてサービス、ファイル、データ、コンテンツが提供する情報にアクセスするか、またはその情報を受け取る場合は、適切なライセンスが必要です。「ライセンスがないユーザーのアクセス」はできません。接続をプーリングするかどうかにかかわらず、マルチプレキシングをセットアップしても Dynamics 365 サービスのアクセスに必要なライセンスを減らすことはできません。Dynamics 365 サービスに直接または間接的にアクセスするユーザーまたはデバイスには、適切なライセンスが必要です。

Dynamics 365 サービスでデータの入力、照会、閲覧を直接行うユーザーやデバイスには、Dynamics 365 のライセンスが必要となります。同様に、プーリング デバイスを通じて Dynamics 365 サービスでデータの入力、照会、閲覧を行うユーザーやデバイスにも、Dynamics 365 のライセンスが必要となります。

プーリングされた接続では、Web サービス層を通じてのみシステムにアクセスできる、非インタラクティブなユーザー アカウントが Dynamics 365 内で使用されます。以下の例のように、ポータルや API から Microsoft Outlook などの別のサービスの Dynamics 365 データに間接的にアクセスする内部のユーザーやデバイスも、サービス内で Dynamics 365 ユーザーとしてセットアップされているかどうかにかかわらず、適切なライセンスが必要です。

- Power Apps から Dynamics 365 の[制限付きデータ](#)に間接的にアクセスする内部のユーザーやデバイスには、Dynamics 365 の適切なライセンスが必要です。
- 自動プロセスを通じてサーバーから提供されるサービス、ファイル、データ、コンテンツにアクセスするユーザーやデバイスには、Dynamics 365 サービスのライセンスが必要です。

- 必要なライセンス数は、Dynamics 365 サービスとそのデータ、サービス、機能を使用するユーザーやデバイスとの間に存在するハードウェアやソフトウェアの数によりません。

**注:** ライセンス ユーザーは、(ライセンスのないユーザーからの) 情報を Dynamics 365 サービスに手動で入力し直すことができます。

Power Automate などの自動プロセスを使用して Dynamics 365 内でデータを移動する場合は、マルチプレキシングを検討する必要があります。

- データが Dataverse 内に存在し、一般的なエンティティ データである場合は、適切な Dataverse ライセンス (Dynamics ライセンスまたは Power Platform のユーザー ライセンス) を保有するユーザーであればだれでもアクセスできます。
- データが Dataverse 内に存在し、[制限付き](#)エンティティ データである場合は、マルチプレキシングを適用して、適切な Dynamics ユーザー ライセンスを持つエンド ユーザーのみがアクセスできるようにします。
- Power Automate から Dataverse 外部にデータが移動された場合、そのデータにアクセスするユーザーは Dynamics ライセンスが必要です。

これは、Power Automate が自動プロセスであるためです。**例:** 自動プロセスにより制限付きデータが Dataverse 外に移動される場合でも、Dataverse 内に保持される場合でも、そのデータにアクセスするエンド ユーザーには適切なライセンスが必要です。

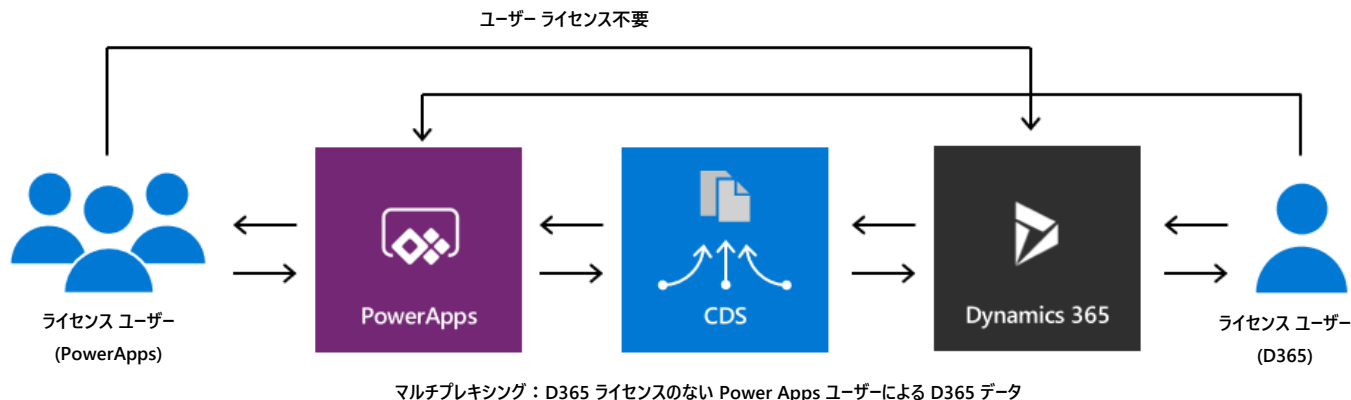
## Dynamics 365 が Dataverse や Power Apps と連動するしくみ

---

Dynamics 365 Customer Engagement (CE) トランザクション アプリ (Dynamics 365 Marketing、Sales、Customer Service、Field Service など) は Power Platform 上にネイティブに構築されており、Dataverse、Power Apps、Power Automate と連動しています。このため、各アプリには以下のような特徴があります。

- Power Platform 環境に自動的にデプロイされる
- アプリから取得したデータは Dataverse に直接格納される
- Power Platform 環境にアプリのビジネス ロジックがあり、Dataverse に直接実装される
- Power Apps のユーザー インターフェイスを使用する

Dynamics 365 ERP トランザクション アプリ (Dynamics 365 Finance、SCM、Talent など) は Dataverse にネイティブにデプロイされることはなく、他のプラットフォーム (Power Platform 以外) の一部として共存します。このため、初期状態では Power Platform のデータ、ビジネス ロジック、ユーザー インターフェイスには反映されません。



## 一般的なシナリオ

### 一般的なマルチプレキシング

**シナリオ:** 適切なライセンスを保有しているユーザー A がライセンスを持たない同僚にデータを配布し、変更されたデータを元のサービスに再度インポートします。

#### 例 1

ユーザー A が Dataverse から手動でデータを外部ストレージにエクスポートするか、または同僚に電子メールでデータを送信します。同僚がそのデータを閲覧または編集し、変更後のデータをユーザー A が手動で Dataverse にインポートして戻します。

**マルチプレキシングではない:** 適切なライセンスを保有するユーザー A がデータ配布に伴う操作をすべて手動で行うので、配布先のユーザーはだれでもかまいません。

#### 例 2

ユーザー A が Power Platform (またはその他の自動プロセス) で Dataverse からデータをエクスポートして、外部ストレージにアップロードするか、または電子メールで同僚にデータを送信します。同僚がそのデータを閲覧または編集し、変更後のデータを Power Platform (またはその他の自動プロセス) で Dataverse にインポートして戻します。

**マルチプレキシングに該当:** データ配布に伴う操作をすべて Power Platform (またはその他の自動プロセス) で実行するため、エンドユーザーが元データにアクセスする際と変更後のデータをインポートして戻す際には、適切なライセンスが必要です。

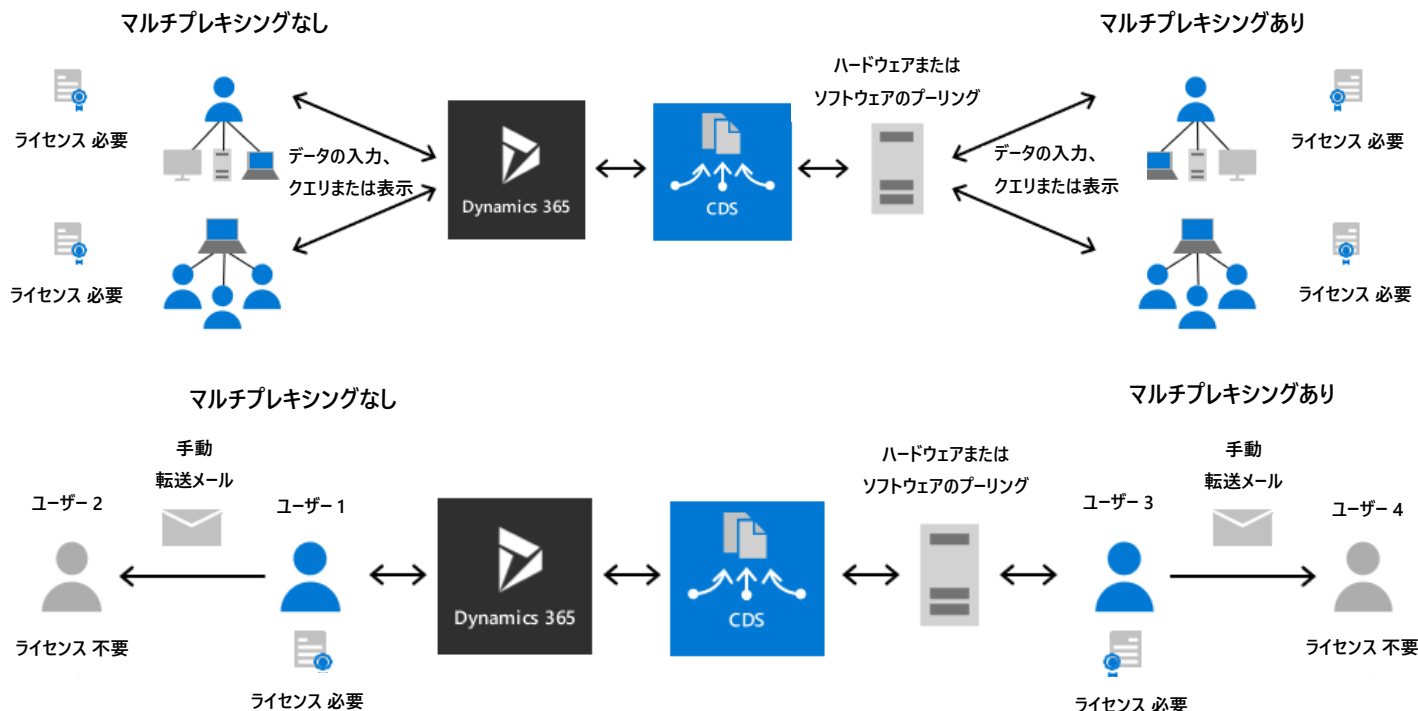
#### 例 3

ユーザー A が Power Platform (またはその他の自動プロセス) で Dataverse からデータをエクスポートして、外部ストレージにアップロードするか、または電子メールで同僚にデータを送信します。データを配布する前にユーザー A が許可/不許可を決定し、Power Platform (またはその他の自動プロセス) で手動で送信または実行します。同僚がそのデータを閲覧または編集し、Power Platform (またはその他の自動プロセス) で Dataverse にデータをインポートします。最終処理の前にユーザー A が許可/不許可を決定し、Power Platform (またはその他の自動プロセス) で手動で送信または実行して変更後のデータを Dataverse にインポートして戻します。



**マルチプレキシングに該当:** ユーザー A の手動操作がプロセスに含まれますが、すべてが手動ではなく、自動処理も含まれています。このように自動処理が含まれている場合は、データにアクセスするエンド ユーザーには適切なライセンスが必要です。

## Dynamics データと Dataverse



### 例 1 - マイクロソフト純正のアプリケーションやサービスが Dataverse 内のデータにアクセスする。

多くのシナリオでは、アプリケーションのビジネス ロジックによって Dataverse 内に Dynamics データが作成されたり、Dataverse データの更新によってアプリケーションでビジネス ロジックが実行されたりします。この場合、アプリケーションまたはユーザーがアクセス可能なライセンスであり、複数の Dynamics アプリケーションでのデータ アクセスと Power Platform のデータ アクセスの両方が有効化されている必要があります。

### 例 2 - Dataverse 外部にビジネス アプリケーションのデータをエクスポートする。

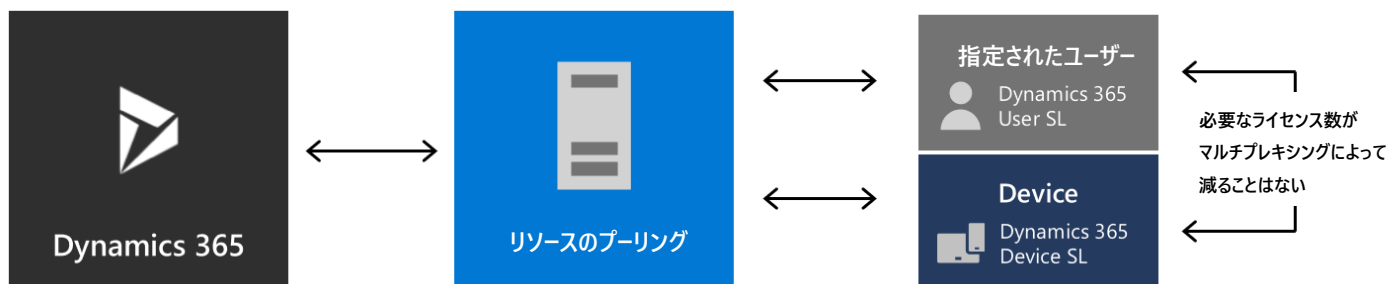
ユーザーは、Dataverse 外部にデータをエクスポートできます。ただし、マルチプレキシングのポリシーでは、マイクロソフト以外の製品であっても、Dataverse データにアクセスするユーザーにはマイクロソフト製品の適切なライセンスが必要であるとしています。自動でエクスポートされたデータに適切にアクセスするには、CAL が必要となります。

### 例 3 - サードパーティ製品をマイクロソフトのアプリケーションやサービスに統合する。

サードパーティのサービスをマイクロソフトのサービスに統合することで、ユーザーにとっての価値を高められますが、マイクロソフトのシステムに大きな負荷がかかる原因にもなります。マルチプレキシングのポリシーにより、マイクロソフト製サービスを直接使用しなくても、統合サービスのすべてのユーザーには、統合されているマイクロソフト サービスのライセンスが必要です。

**例 4 - ユーザー ベースではないマイクロソフトのサービスを使用してマイクロソフトのユーザー ライセンスを回避する。**

マルチプレキシングはアクセス ベースのライセンスにのみ適用されます。従量制やコア ベースなどのユーザー ベースではないライセンス モデルにとって大きなメリットです。ユーザー ベースとユーザー ベースではないライセンス モデルが混在する場合、相互関係が複雑なため、ライセンスに関する問題が複雑化するおそれがあります。



## Microsoft Dynamics 365 と Power Platform

**例 1: Power Platform で問題点を解消し、その後 Dynamics 365 を購入して同一環境内にデプロイしたい。**

Power Platform を使用することで、生産性が大幅に向上します。ユーザーに直接関連するシナリオ用に個別の Dynamics 365 環境を構築するため、別の環境に独立したシナリオを展開します。

同一環境にデプロイする場合、マルチプレキシングのルールはデプロイされた Power Platform ソリューションにも適用され、すべてのユーザーやデバイスに Dynamics 365 の適切なアクセス ライセンスが必要です。

**例 2: 同一環境内で Power Platform を活用する Dynamics 365 シナリオを拡張したい。**

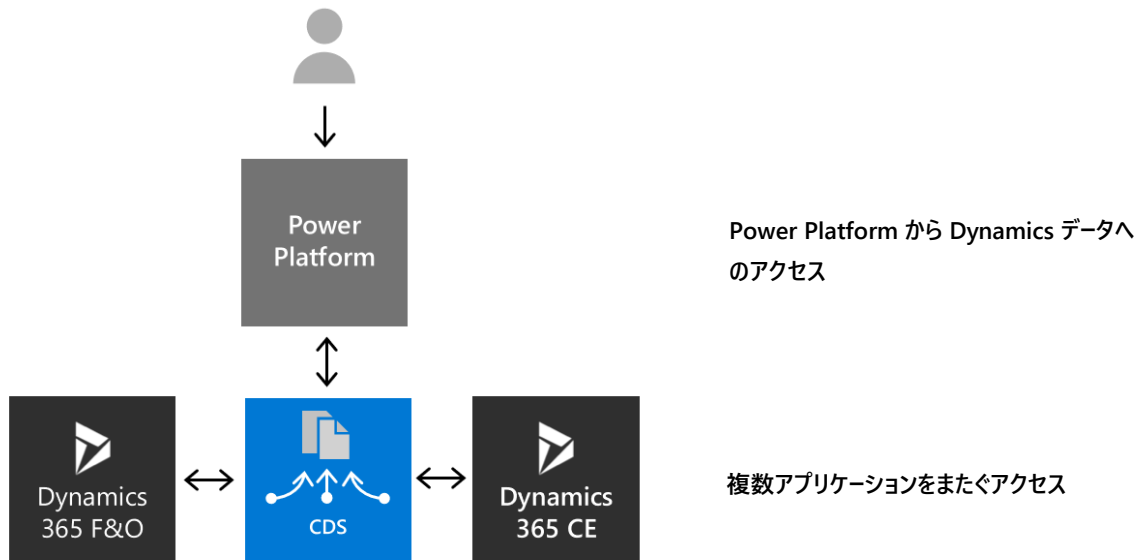
最も一般的なシナリオが、Power Apps を使用して Dynamics 365 を拡張し、これまで Team Member で実施していた軽微な Dynamics シナリオに対応することです。たとえば、現場担当者がリード創出やカスタマー サポートに Power Platform を使用する場合などです。ライセンスを持っていなかったユーザーの利用が複雑化したことで、自動化ソリューションを新たに導入するときに、ライセンスやシナリオに関する問題が生じることがあります。

ここでもマルチプレキシング ルールが適用され、展開するソリューションに応じて、ユーザーやデバイスには適切な Power Platform ライセンスと Dynamics 365 のアクセス ライセンスが必要になります。

**例 3: 同一環境内で Power Platform を使用して Dynamics 365 のシナリオを拡張し、スタンドアロンのシナリオに向けて個別の Power Platform 環境を作成したい。**

これも非常に一般的なシナリオです。例 2 (主にモデル駆動型アプリ) を実施したい Dynamics 365 ユーザーは、データの整理、セキュリティ管理、アクセス制御などのさまざまな理由により、関連性のないソリューション (主にキャンバス駆動型アプリ) を独立させたいと考えます。

例 1 や例 2 と同様に、展開する Power Platform ソリューションに応じてマルチプレキシング ルールが適用されるため、ユーザーやデバイスには Dynamics 365 の適切なアクセス ライセンスが必要になります。



## よく寄せられるご質問 (FAQ)

**Q1:** このルールの適用対象は、この簡易ガイドで扱った製品のみでしょうか、マイクロソフトのライセンス規約に記載されている製品すべてでしょうか?

**A:** マルチプレキシングに関するライセンス条項は共通であり、すべてのマイクロソフト製品に適用されます。この簡易ガイドで扱う製品以外にも、マルチプレキシングのシナリオが適用される場合があります。

**Q2:** マルチプレキシングに関するマイクロソフトの見解に変更はありますか?

**A:** いいえ。このライセンス簡易ガイドは、既に発行されているライセンス条項の内容を簡素化して説明したものです。

**Q3:** デバイス CAL でライセンスを取得したデバイスとマルチプレキシング デバイスの違いを教えてください。

**A:** デバイス CAL が割り当てられたデバイスはだれでも使用でき、ライセンスが割り当てられたサーバーのサーバー ソフトウェアのインスタンスにアクセスできます。マルチプレキシング デバイスではその他のデバイスからの接続がプールされますが、該当デバイスのライセンスが不要になるわけではありません。

**Q4:** マルチプレキシング デバイスのチェーンによってライセンス要件は変わりますか?

**A:** いいえ。エンド ユーザー/デバイスとサーバーとの間にマルチプレキシング デバイスが何台あるかに関係なく、マルチプレキシングによって必要な CAL の数が減ることはありません。

**Q5:** マルチプレキシング デバイスに CAL は必要ですか?

**A:** いいえ。ただし、管理者ではないユーザーがマルチプレキシング デバイスに直接アクセスする場合は CAL が必要です。

**Q6:** Windows Server CAL のマルチプレキシングのルールは、これとは異なっていますか?

**A:** いいえ。前述の SQL Server の例と同様に、直接的にでも間接的にでも Windows Server にアクセスするためには CAL が必要となります。Windows Server ソフトウェアによって、あるいはマルチプレキシング ハードウェアまたはソフトウェアによって Windows Server にアクセスするためには、いずれの場合も Windows Server CAL が必要となります。

**Q7:** 現場担当者がオンプレミス サーバーにデータを入力します。そのデータは Dataverse にコピーされ、D365 ライセンスを保有する他のユーザーがアクセスして営業パイプラインや見積もりなどで使用します。このとき、現場担当者には D365 ライセンスが必要ですか？ Dynamics は使用しておらず、データの送信先となっていることも知りません。

**A:** 必要です。D365 アプリケーションのデータを更新するユーザーは、直接か間接的にかかわらず、適切なライセンスが必要です。これは、オンプレミス サーバーがプーリング デバイスとして Dataverse 経由で D365 にデータを入力するマルチプレキシングです。

**Q8:** Dataverse と Project データにアクセスしてチーム用のレポートを生成する Power Apps アプリを作成しました。アクセスするデータには、Dataverse 内に存在する D365 の制限付きエンティティ データも含まれていました。作成した Power Apps アプリでこれらのデータをプルすることはできますか？

**A:** いいえ。制限付きエンティティ データのアクセス、閲覧、読み取り、書き込みは、適切なライセンスが割り当てられたアプリケーションとの間のみに限られます。D365 や Project などの各アプリケーションのデータにアクセスするには、アプリケーションごとの適切なライセンスが必要です。

**Q9:** 複数の支店が顧客の決済時に複数階層のソフトウェアを介して通信しています。その後トランザクションが検証され、注文として Dynamics にインポートされます。これはリアルタイムではなく 1 週間に 1 回実行されます。本社には D365 のフル ライセンスが割り当てられており、データの取得と格納を実行します。マルチプレキシングを防ぐためには、各支店にライセンスを追加する必要がありますか？

**A:** はい。支店は D365 に直接アクセスする必要がないため、Dynamics 365 Operations - Order Lines を購入するという方法があります。この場合、OData または DIXF を統合して間接的にトランザクションを実行し、Operations - Order Lines に応じて修飾されたテーブルでのみデータを更新します。詳細については、D365 のライセンス ガイドをご覧ください。

**Q10:** マルチプレキシングの詳細はどこで確認できますか？

**A:** マルチプレキシングについては、Dynamics 365 と Power Platform のライセンス ガイドで詳しく説明しています。また、製品およびオンライン サービスの使用条項のマルチプレキシングに関する項目もご確認ください。

## 用語集

### マルチプレキシング:

マルチプレキシングとは、ハードウェアまたはソフトウェアを使用して、接続数をプールする、情報の経路を変更する、製品に直接アクセスしたり製品を使用したりするデバイスやユーザーの数を減らすことです。製品が直接管理するデバイスやユーザーの数を減らすことも該当します。

マルチプレキシングは「プーリング」と呼ばれることもあります。マルチプレキシングにより、ユーザーに必要な製品の各種ライセンスの数減らすことはできません。

### Power Platform

Power Platform とは Power Apps、Power BI、Power Automate を合わせた製品群です。ビジネス ニーズに応じてさまざまなアプリをカスタマイズ、拡張、構築することで、Office 365 と Dynamics 365 の可能性を広げられます。Power Platform は、Microsoft Dataverse を基盤としています。

### Power Apps

Power Apps とは、Power Platform のユーザー インターフェイス システムです。外部コネクタを使用せずネイティブに Dataverse のデータソースに接続し、コンテキストに応じて Dataverse データを操作します。Power Apps のアプリケーションやコンポーネントは Dataverse ソリューションとしてパッケージ化されており、Power Platform 環境間で転送したり再デプロイしたりできます。

### Dynamics 365

Microsoft Dynamics 365 (D365) はクラウド ベースのビジネス アプリケーション プラットフォームで、顧客関係管理 (CRM) とエンタープライズ リソース プランニング (ERP) のコンポーネント、および生産性アプリケーションや人工知能ツールと連携します。

### Dataverse

Microsoft Dataverse は、データやビジネス ロジックを容易に構造化して、相互接続されたアプリケーションやプロセスをサポートするためのビジネス アプリケーション プラットフォームです。これにより、ビジネス アプリケーションで使用する企業のデータを安全に格納、管理、利用できます。

© 2021 Microsoft Corporation. All rights reserved. 本ドキュメントは情報提供のみを目的としています。明示または黙示にかかわらず、この内容に関してマイクロソフトはいかなる責任も負わないものとします。この情報はライセンスを受けた製品を正しくご使用いただくためのガイドであり、お客様との契約ではありません。ボリューム ライセンス契約に基づきライセンスを受けた製品の使用については、当該契約に定める契約条件に規定されます。この情報と契約の間に齟齬がある場合は、契約の条項が優先されます。マイクロソフトの代理店を通じて取得するライセンスの価格は、代理店によって決定されます。